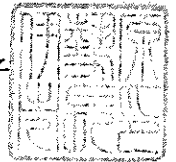




伊 対 策 収 第 1 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

伊勢原市長 長 塚 幾 子



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたことについて、次のとおり回答します。

- 1 道路行政全般について改善すべき点
要望や提案など・・・・・・・・・・別紙 様式①のとおり
- 2 地域の現状と抱える課題・・・・・・・・・・別紙 様式②のとおり
- 3 地域の目指すべき将来像・・・・・・・・・・別紙 様式③のとおり
- 4 道路施策の重点事項・・・・・・・・・・別紙 様式④のとおり
（代表事例、期待する効果や評価等）

（事務担当は、都市部 第二東名・246号バイパス対策課 内線2712）

(1) インターチェンジ周辺地区の重点的な道路ネットワーク整備

高速道路のネットワークは広範な地域を結んで、人・物・情報の交流を支える基盤となるものと考えています。

第二東名高速道路や厚木秦野道路（国道246号バイパス）の建設により整備される、2つのインターチェンジを都市ゲートとして位置づけ、新たな産業立地や雇用の創出、また、大都市近郊の立地を活かした新たなまちづくりに結びつけたいと考えており、インターチェンジの建設は、活力ある都市づくりの核となり、市域全体の土地利用の転換を促進し、新たな産業拠点の形成など、多くの経済の活性化や居住条件の快適性の向上につながると確信しているところです。

市民が伊勢原の魅力の一番にあげるのは「山の眺めや緑の豊かさ」であり、伊勢原の将来の姿として環境と共生する地域づくりが強く期待されています。また、伊勢原市には、「やま・おか・まち・さと」の美しい自然と歴史・文化など、沢山のかけがえのない資源があふれていますが、広域幹線道路建設を契機とし、それぞれの特色を活かした地域づくりが重要です。

そのためには、第二東名高速道路や厚木秦野道路（国道246号バイパス）の建設により、分断された地域内の生活道路の改善やコミュニティ機能の確保、インターチェンジへのアクセス機能強化やインターチェンジ周辺地域の重点的な道路ネットワークの整備、そして、何よりも、快適な生活をおくるために必要な道路や公園、下水道などが整い、子どもからお年よりまですべての人が安全で、安心して生活できるまちづくりが必要不可欠となっています。

これらの課題を確実に実現するためには、現行の補助事業制度では採択の受けることができない事業に対する制度化が望まれるところであり、新たな補助メニューの創設や地方道路整備臨時交付金の制度拡充など柔軟な対応に期待するところです。

▼ 現行補助事業制度では採択されない事業

- ・高規格道路の建設に伴う機能補償道路の拡幅改良（道路事業者とのアロケ分の補助）
- ・高架下や新設交差点への街路灯・防犯施設の設置
- ・分断される地域内の生活道路の整備やインターチェンジ周辺道路ネットワーク整備
- ・新市街地形成（新たな産業拠点整備）に伴う道路整備
- ・環境、消防、広域観光推進、福祉・医療機関の整備に伴う拡幅改良 …………… など

(2) 市町村生活道路における改良促進及び管理全般への道路特定財源の充当

すべての人が幹線道路を日常的に利用しているものではなく、高齢化社会を迎えている現在では、補助幹線道路をはじめ地区集散道路、区画道路など日常生活に密接である生活道路の利用度が高くなっています。

本市においても、急激な都市化の進展に対応するため、都市基盤や生活関連施設などの整備や計画的なまちづくりを進めてきたところですが、近年、関係自治会や市民からの要望は、生活道路の拡幅、歩道設置や歩行者共存道路などの交通安全施設整備、舗装の打換など様々で、この生活道路の整備、維持管理費の財源不足から、市街地では狭あい道路も多く、生活道路の舗装の劣化が拡大しているのが実情です。

県や市町村の道路整備事業は未だ十分賄われているとは言えない状況にあり、相対的に立ち遅れている市町村道を重点的に整備するため、所要財源を地域へ重点配分するなど、地域の意見を十分に踏まえたうえで取り組むことが必要であると考えます。

地域における市町村道整備は極めて重要であり、今後も十分な道路整備財源を確保する必要があることから、国税を地方税として委譲し、併せて地域に不利益な措置が講じられることのないよう配慮することが必要と考えます。

▼ 主要な要望事項

- ・市町村の実情に応じた生活道路の整備や維持改善を目的に道路特定財源を充当し、これを補助金、交付金という形でなく、道路改良の促進や道路維持管理全般に資することのできる予算として市町村に追加委譲すること。
- ・追加委譲できないのであれば、「まちづくり交付金」などの現行補助制度の補助率をアップすること。

本市の将来像を実現していくためには、限られた市域の中で、それぞれの特徴を活かした土地の有効利用を図ることが必要です。伊勢原市では、地域の特性を一層創造するための土地利用の構想においては、市域を4つの地域に区分し、地勢とまちづくりの歴史に基づき、『やま・おか・まち・さと』と位置づけ、それぞれの地域づくりに向けて、環境や景観などに関わる諸計画の策定や都市計画諸制度の活用、土地利用調整のためのルールづくりを推進し、地域の合意に基づく土地利用を実現していくことにより、豊かな自然環境と市民の暮らしが共生する、個性あふれる伊勢原づくりをめざします。

「やま」の地域における現状と課題

○現状

大山、日向地域を中心とした山地部であり、そこに育まれてきた自然や歴史・文化は市民の大きな財産となっています。市街地を抱きかかえる形で広がり、地域の主要な部分は国定公園にも指定され、首都圏における身近な観光・レクリエーションの場として、四季折々、多くの人が訪れています。

豊かな自然環境を有する地域として、現在の良好な環境を保持しながら成長、発展していくためには、社会の変化に対応した地域の改変と新たな魅力づくりを進める必要があります。観光地としての新たな要素を加えるとともに、そこに暮らす人たちの快適性の向上が求められています。

「おか」の地域における現状と課題

○現状

東名高速道路から北西側に広がる丘陵部で、畑作を中心とする農地が多く占める豊かな環境に恵まれる中に、旧来からの集落が点在し、個性ある農村文化が育まれてきました。

地域は、都市計画制度上の市街化調整区域であることから、これまで都市生活をおくるうえでの基礎的な施設整備が十分ではなく、みどり豊かな現在の環境を生かしたうえで、生活の利便性を向上する公共施設の整備が必要な地域でもあります。

○課題

恵まれた自然環境をいかに将来に引き継いでいくかは今日の大きな課題ですが、個人が山林を維持・管理していくのは困難な状況になっていることから、山林の荒廃が進み、鳥獣被害など新たな問題が発生しています。森林資源を適切に保全していく新たな「しくみ」づくりを、多様な担い手の創出・育成とあわせて生み出していくことが課題となっています。

第二東名高速道路、厚木秦野道路の整備により、広域的なアクセス機能の強化が進むことから、低迷する観光客増加への契機となることが期待されています。こうした環境の変化を活かし、これからの社会のニーズを的確に捉え、国民の余暇活動などに対応した地域の形成が求められています。

○課題

この地域には、第二東名高速道路と厚木秦野道路という2つの広域幹線道路の整備が進められており、インターチェンジの設置も計画されています。大規模な構造物の建設に伴うこれまでの良好な環境や、景観への影響を最小限に止め、地域の活性化や新たな拠点の形成につながる土地利用計画の立案のもとに、地域の再構築やコミュニティの再編を行っていくことが必要となっています。

インターチェンジの設置は、これまでの伊勢原市に欠けていた広域的な交通の結節点としての機能をもたらすことから、農業や観光など既存の産業が飛躍する契機となることが期待されています。伊勢原市における新しい拠点地域として、現在の良好な環境に調和した中で、産業系の機能集積を進め、新しい時代の発展をリードする地域づくりが求められています。

「まち」の地域における現状と課題 ○現状 国道246号に沿った、成瀬、伊勢原、比々多地域に広がる市街地であり、住宅を基本して、商業や工業、サービス業など、さまざまな都市活動が営まれている伊勢原の中心的地域です。 伊勢原駅、愛甲石田駅という2つの鉄道駅を中心として住宅市街地が広がり、その中に商業地と工業地が展開する地域となっています。しかし、近年は工場が流通サービス業の事業所や住宅に、商店が共同住宅などへと姿を変え、用途の混在が現れてきています。伊勢原駅と愛甲石田駅を中心とする地域では、それぞれが担う役割に見合った交通や、商業、サービス業、行政などのさまざまな機能を整えていく必要があります。	○課題 <u>伊勢原駅周辺では、伊勢原駅北口での駅前整備や南口での都市計画道路整備を契機として、商業、サービスなどのさまざまな機能が配置され、伊勢原らしい景観をもった都市の玄関として、また、愛甲石田駅周辺では、市東部地区の中核・生活拠点としての地域形成を進めていくことが重要です。また、住宅地の中には、基盤整備が進まず、狭い道路や緑地空間の不足などにより、改善を必要とする地区も見受けられることから、着実な地域整備により、市街地環境の向上を進めていく必要があります。</u> <u>社会の変化に対応した、誰もが利用しやすく高い利便性を提供する都市へ脱皮することが必要であり、人々の社会活動を支える都市基盤には、高齢者、障害者、女性や子どもなど、誰もが活動しやすい環境を提供することが求められています。</u>
「さと」の地域における現状と課題 ○現状 大田から比々多南部に広がる地域であり、鈴川、歌川、渋田川という伊勢原を代表する河川が流れ、水田が広がる中に集落が点在する、伊勢原らしい景観を醸し出しています。 県内有数の農業地域として、基盤整備事業が行われ耕地が整えられてきましたが、従事者の高齢化、後継者の不足などの問題を抱え、休耕田や荒廃した農地なども見受けられるようになっています。農地は、食料の供給ばかりでなく、国土の保全や保水、景観形成などの機能を有しており、こうした多岐な役割が十分に発揮できるよう保全、整備していくことが必要です。	○課題 <u>農産物の輸入自由化や安全な農畜産物を求める消費ニーズの高まりに対応して、顔の見える農業や、化学肥料や農薬の使用をできる限り抑制した栽培など新しい農業への取り組みが進められており、地産地消を目標とした農業が自立し、安定した経営のもとで継続されていくことが課題となっています。</u> <u>農業生産基盤の整備が進む一方、集落の生活環境の整備は市街地と比較すると、その取り組みは遅れていました。集落の基幹となる生活道路などの整備に取り組みながら、地域に育まれてきた河川や花に親しむ環境をいっそう充実することにより、心豊かな、質の高い暮らしへの転換が求められています。</u>

「やま」の地域における将来方向

地域の特性であり、本市の重要な資源でもある「山のみどり」を活かした地域形成と観光・レクリエーション機能を充実・強化することにより、訪れる人の心をとらえ、魅力にあふれた、個性豊かな地域としての発展を図っていくことが求められています。生活環境の向上と地域産業の振興を図りながら、豊かな自然環境にふれる、身近な首都圏のオアシス、市民の心のふるさととしての地域づくりをめざします。

■伊勢原の自然と文化を創出

豊かな自然を守り、育てるシステムの構築とともに、地域資源を活用し連携・連続性の強化をめざし、地域が有する環境や歴史資源などの再生・再整備により、ふるさとの原風景をよみがえらせ、すべての年代の人達が楽しみ、和める地域づくりを進めます。

また、首都圏における身近で、手軽な観光・レクリエーションの場として、社会の変化に対応した施設整備やもてなしの心を育むなど、何度も訪れたいと思う心にふれる地域づくりを進めます。

▲まちづくりの方策

観光振興を支える基盤施設の確立を図り、社会の変化に対応した新たな機能として、大山地区については、温泉を活用した新たな誘客施設などの整備を図るとともに、より広域的で、世代を超えた観光地として積極的な情報の発信を行います。

また、広域幹線道路（第二東名高速道路・厚木秦野道路）の整備効果を活かすため、地域の特性を発揮した周遊ルートの創出など、新たな魅力づくりによる地域形成を進めます。

「おか」の地域における将来方向

広域幹線道路（第二東名高速道路・厚木秦野道路）がもたらす様々な交流と地域の環境にふさわしい土地利用の展開を進めることにより、これまでの地域産業のいっそうの進展と、地域の活力向上への取り組みを進め、伊勢原の新しい拠点となる地域形成をめざします。

■新都市拠点の形成

北インター周辺では、点在する利用可能地や幹線道路の沿道などを活用し、産業系施設、交流拠点施設の展開を図ることにより、周辺の住宅地や農地などの各種資源とが連携する「新都市拠点」の形成を進め、西インター周辺では、周辺に展開する樹園地を中心とした観光農園や歴史資料の活用を図り、整備が進められている「県立いせはら塔の山緑地公園」と一体となった地域づくりに取り組み、豊かな稔りの里として、新しい魅力を提供する「交流拠点」の形成を進めます。また、市内に立地する大学が持つ高度な専門性や人材、施設を活かし、みどり豊かなキャンパスを中心として、文化や産業、地域活動が活発に展開される地域づくりをめざします。

▲まちづくりの方策

良好な自然環境、生活環境を保持しながら、地域に関わるさまざまな主体の合意のもとに土地利用の計画策定を進め、その実現のため、区域区分や地域区分の指定など、都市計画制度の活用や土地利用の誘導と規制に向けた仕組みを整え、環境と調和した地域の形成を進めます。また、インターチェンジ周辺拠点地域の形成に向けて、アクセス道路や関連する道路網の整備により交通基盤を整えとともに、生活環境の確立を図り、良好な住宅地の形成が行われるよう支援を進めます。

「まち」の地域における将来方向

本市の都市活動の中核を担う地域として、それぞれの利用区分に基づく役割の発揮のもとに、都市の魅力と機能の向上に取り組み、市民生活の安全性の確保対策の推進や市街地環境の改善により、良好な都市環境の形成をめざします。

■良好な生活環境の確立

日常生活を支える道路や下水道などの都市基盤施設の整備を進めながら、暮らしにやすらぎとうるおいをもたらす、身近な河川、緑地の保全と活用を進め、快適な生活空間の創出をめざします。また、現在の良好な住環境を保全する地域、生活環境の改善が必要な地域、新たな住宅地を供給していく地域のそれぞれに対応する良好な生活環境の確保方策の確立をめざします。

■産業力の強化

円滑な企業活動と経営の継続を図り、周辺環境に適合した操業環境の確保をめざします。また、住工混在を解消する事業所の立地や恵まれた交通環境や立地条件を活かした多様な産業の展開をめざして、市東部地域に完成した歌川産業スクエアに続く、新たな産業用地の創出に向けた取り組みを進めます。

■都市を支える中心的な市街地機能の発揮

伊勢原駅南北での都市基盤整備と多様な都市機能の集積を図りながら、中心市街地の活性化に向けた事業者による自主的な取り組みを進め、魅力にあふれ、にぎわいのある拠点としてのまちづくりをめざします。

▲まちづくりの方策

伊勢原駅北口の整備、南口での都市計画道路の整備により、駅前広場や駐車場などの交通の拠点となる施設機能を改善し、主要な交通動線のバリアフリー化を進めるとともに、伊勢原らしい景観を持つ、新しい時代の伊勢原の玄関づくりを進めます。

また、新たな産業用地の創出と積極的な企業誘致活動を展開するとともに、既存事業所の経営基盤を強化する支援体制を整え、サービス業の展開や経営の革新、起業などを促進し、多彩な産業活動による活気あるまちづくりを進めます。

「さと」の地域における将来方向

地域に根付き自立した農業の確立を図るとともに、これまで地域が育んできた芝桜やあやめの里などの、水と花と緑に包まれた快適で心やすらぐ農村環境の創出をめざします。また、地域に近接して計画されているツインシティ整備の進捗にあわせ、他都市からの交流を生み出せるよう、長期の展望を持って、地域の魅力を強化するまちづくりに取り組んでいきます。

■個性ある農村集落の形成とふるさとの原風景の確立

良好な生活環境を有する農村集落において、心豊かな暮らしが営まれる地域づくりを進めます。また、市内の水系を活かし、水と花と緑が織りなす快適な環境づくりを進め、ふるさとの原風景となる地域づくりをめざします。

▲まちづくりの方策

安定した経営と特色ある農業が展開される地域の形成に向けて圃場、農道（生活道路）、用排水路や処理施設などの整備を進めるとともに、生活基盤である集落道、排水路などの整備を進めながら、河川環境の整備と活用による、水と花と緑のネットワーク形成や、憩いの拠点交流の拠点づくりを進めることにより、やすらぎにあふれた美しい生活環境の創出を図ります。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

神奈川県伊勢原市

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
地域活力の向上	○産業集積の新たな展開 新たな産業立地の受け皿づくりや企業誘致活動を推進する。 ・北インター周辺まちづくりの推進 ・東部新産業軸の形成 ・産業集積促進事業 ○観光施設の整備 掘削した温泉資源を有効に活用し、地域の観光振興につなげるとともに、駐車場やトイレなど観光客受け入れのための基盤となる施設を改善する。 ・観光施設整備事業 ・国道・県道の整備促進 ・歴史遺産の整備 ・日向水源の保全再生 ・景観計画の策定	広域幹線道路のインターチェンジ周辺に、広域交通の利便性を活かした産業用地の創出をめざす。 ◇事業指標：産業用地の創出 （現況） 事業区域検討 （５年後目標）事業区域確定 工事が完了する都市計画道路横浜伊勢原線の沿線を中心に、新たな産業軸の形成を進める。 ◇事業指標：産業用地の創出 （現況） 事業化に向けた合意形成 （５年後目標）市街化区域に編入する区域確定 大山地域の新たな観光施設整備や観光資源開発を進める。 ◇事業指標：駐車場の整備 （現況） 検討 （５年後目標）整備 日向地区の日陰路・彼岸花の里など、自然・歴史遺跡を活かした観光拠点や散策路を整備する。 ◇事業指標：計画・整備の状況 （現況） — （５年後目標）整備 大山バイパスの整備促進を県へ働きかけ道路交通アクセスを改善する。 ◇事業指標：大山バイパス事業の推進（整備延長） （現況） ８１０ｍ （５年後目標）１,６１０ｍ	[めざす状態] 活気や賑わいのあるまちになっている 市内で働く人が増えている [まちづくり指標] 夜間人口に占める昼間人口割合 （昼夜間人口比率） ９１.２％⇒改善 市内に住む就業者数に対する市内従業者数の割合（就従比率） ８２.８％⇒８６.５％ [めざす状態] 多くの人が伊勢原市に訪れている [まちづくり指標] 観光客数（年間） 約１８０万人⇒約１９５万人

都市交通の快適性、利便性の向上	○山麓みらい広域交流拠点の形成 広域幹線道路のインターチェンジ開設にあわせ、山麓地域の未来を拓く、新しい都市拠点の形成につなげるための取り組みを着実に進めるとともに、広域幹線道路建設により生み出される道路高架下や環境施設帯の空間を有効に活用し、アメニティ（快適性）機能を備えた「緑のベルト」空間として形成されるよう取り組む。 ・北インター周辺まちづくりの推進（再掲） ・東部新産業軸の形成（再掲） ・広域幹線道路関連公共施設対策 ・広域幹線道路環境施設帯・高架下の利活用 ○伊勢原駅周辺のまちづくりの推進 伊勢原駅北口の駅前広場や街路をその沿道と一体的に整備する事業を進め、市の玄関口にふさわしい都市空間の形成をめざします。また、駅南口では、街路拡幅とあわせて電線等を埋設し、ゆとりある快適な歩行空間を創出します。さらに、駅の南北をつなぐ自由通路の拡幅やバリアフリー化を進め快適な歩行空間を創出する。 ・伊勢原駅北口の整備 ○愛甲石田駅周辺のまちづくりの推進 愛甲石田駅周辺では、駅南口と郊外部を連絡する公共バスの運行を確保するなど、交通ターミナルとしての機能を高めます。また、隣接する厚木市と連携し、生活拠点機能を高めるためのまちづくりの方向を定めるための取り組みを進める。 ・愛甲石田駅南口周辺のまちづくり推進	広域幹線道路建設事業の促進を国等へ働きかけるとともに、建設工事に関連する市道等の機能回復や改善を効率的に進める。 ◇事業指標：関連市道５６号線の工事進捗 （現況） 着手 （５年後目標）Ⅰ期工区竣工 伊勢原駅北口の駅前広場や街路をその沿道と一体的に整備する。 ◇事業指標：都市計画の手続き （現況） 検討 （５年後目標）計画変更 ◇事業指標：沿道整備街路事業の実施 （現況） 地元調整 （５年後目標）事業着手 狭あい道路の多い愛甲石田駅南口周辺の現状を改善するため、将来土地利用計画を策定し、事業手法に対する関係権利者の合意形成を図る。 ◇事業指標：将来土地利用計画の策定 （現況） 地元調整 （５年後目標）策定 ◇事業指標：事業手法に対する合意形成 （現況） 地元調整 （５年後目標）合意形成	[めざす状態] インター周辺が活力ある拠点として整備されている。 [まちづくり指標] 第二東名高速道路の整備進捗率 約４％⇒約３０％（整備延長ベース） 厚木奈野道路の整備進捗率 約０％⇒約５％（整備延長ベース） 都市計画道路西富岡石倉線整備進捗率 約０％⇒約５％（整備延長ベース） 伊勢原駅自由通路の往来者数 約７,８００人⇒約９,３００人
------------------------	--	--	---

	○地域をつなぐ幹線道路づくり 広域交通の要衝となる伊勢原北インターチェンジの開設を見通し、大山や日向などの観光地と既存市街地との交流・連携を高める主要な幹線道路の整備を進め、南北に奥行きのある都市構造の形成をめざします。また、山麓地域を東西につなぐ厚木秦野道路の建設を促進するなど、国道246号に代わる新しい東西地域間の連絡機能を高める。 ・都市計画道路の整備 ・国道・県道の整備促進（再掲） ○生活道路の改善 沿道の土地利用の状況や交通量などに配慮し、安全な一般市道への改善を計画的に進める。 ・安心・安全で快適な道路空間整備	市内幹線道路網を改善するため、都市計画道路の整備を推進する。 ◇事業指標：牛塚下原線（延長320m）事業進捗 （現況） 整備率約30% （5年後目標）整備完了 ◇事業指標：西富岡馬渡線（延長650m）事業進捗 （現況） 用地取得率86.5% （5年後目標）暫定整備・供用 ◇事業指標：田中笠窪線（延長400m）事業進捗 （現況） 用地取得率56.8% （5年後目標）暫定整備・供用 市内幹線道路網を改善するため、主要地方道等の整備促進を県へ働きかける。 ◇事業指標：伊勢原津久井 延長1,500m 整備延長 （現況） 775m （5年後目標）1,125m ◇事業指標：伊勢原藤沢 延長153m 整備延長 （現況） 100m （5年後目標）153m・完了 ◇事業指標：大山板戸 延長3,030m 整備延長 （現況） 810m （5年後目標）1,610m 道路整備計画を策定し一般市道改良を計画的に推進する。 ◇事業指標：道路整備計画の策定 （現況） — （5年後目標）策定 ◇事業指標：補助幹線道路の改良延長 （現況） — （5年後目標）270m ◇事業指標：生活道路の改良延長 （現況） — （5年後目標）1,780m	[めざす状態] 誰もが気軽に移動できる環境が整っている。 [まちづくり指標] 市道の改良率 70.0% ⇒ 70.5% 都市計画道路の整備率 37.1% ⇒ 37.3% バス利用者数（年間） 920万人 ⇒ 920万人
--	---	--	---

	○バス交通対策 バス路線の廃止統合の動きがある中で、地域に適した交通サービスのあり方、また、交通渋滞や悪化する環境への対応について検討し、地域住民の日常生活の移動手手段の確保や利便性の向上を図る。 ・バス交通対策事業 ○広域行政の推進 行政運営の合理化・効率化の観点から、近隣自治体との連携を推進する。	交通渋滞や悪化する環境への対応として、公共交通の利便性の検討を含め、交通需要マネジメントの施策の導入を図る。 ◇事業指標：交通需要マネジメントの施策導入 (現況) 検討 (5年後目標) 段階的に実施 厚木秦野道路全線の早期事業化をめざし、秦野市、厚木市、伊勢原市の三市で構成する「国道246号バイパス建設促進協議会」を主体として第二東名高速道路とあわせた建設を促進する。 ◇事業指標：厚木秦野道路事業化延長 (現況) 8.4km (5年後目標) 29.1km (全線)	
--	--	--	--

少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	○伊勢原駅周辺のまちづくりの推進（再掲） ・伊勢原駅自由通路の整備 ○バリアフリーのまちづくり 市のバリアフリーのまちづくり基本構想に基づき、公共建築物や道路、公園などの公共施設のバリアフリーと、駅を中心とした重点整備地区の交通バリアフリーの整備を進める。 ・誰にもやさしい歩行空間整備（再掲） ○地域保健医療体制の充実 伊勢原協同病院の移転新築計画が進み、地域の保健医療サービスの機能が拡充されるよう、行政センター周辺の道路整備など必要な支援策を講じていく。 ・伊勢原協同病院移転新築の支援	伊勢原駅南北をつなぐ自由通路の拡幅やバリアフリー化を進め、多くの人が訪れ行き交う「街のロビー」として快適な歩行空間を創出する。 ◇事業指標：伊勢原駅自由通路の拡幅 （現況） 通路幅 5.7m （5年後目標） 通路幅 8.0m ◇事業指標：エスカレーターの整備 （現況） — （5年後目標） 南北階段へ併設 一般市道における歩行空間確保とバリアフリーを進める。 ◇事業指標：バリアフリー工事延長 （現況） — （5年後目標） 1,550m ◇事業指標：特定経路交通バリアフリー化延長 （現況） 440m （5年後目標） 1,490m 地域保健医療体制の充実を図るため、二次救急医療機関である伊勢原協同病院の移転新築事業を支援する。 ◇事業指標：新病院の移転新築事業の進捗 （現況） 移転候補地の検討 （5年後目標） 新病院建設の具体化・支援 ※ 神奈川県厚生農業協同組合連合会を経営母体とする伊勢原協同病院は、市民にとってより身近な医療機関であり、また、湘南西部地域における二次救急医療機関として、市民の安心を支える公的医療機関として大きな役割を果たしてきました。伊勢原市では、市内に一次から三次までの救急医療機関を確保するとともに、全国的にも卓越した医療施設の水準を保持するため、伊勢原協同病院の移転新築計画への支援をできる限り行っています。	
--------------------------------------	---	---	--

良好な生活空間 自然環境の形成	○山麓みらい広域交流拠点の形成（再掲） ・広域幹線道路環境施設帯・高架下の利活用（再掲） ○水と花と緑のふるさとづくり 広域幹線道路の建設をはじめ、さまざまな開発が今後も想定されるなか、水、花、緑という地域資源の活用を軸としながら、自然色豊かなふるさとづくりを進める。 ・水と緑のネットワーク整備事業 ・日向水源の保全再生 ・歌川改修事業 ・県立いせはら塔の山緑地公園の整備促進	広域幹線道路の高架下や環境施設帯の空間を有効に活用できるよう取り組む。 ◇事業指標：空間活用の施設整備・管理計画策定 （現況） 検討 （5年後目標） 策定 「おか」の緑から「まち」や「さと」の地域をつなぐ、主要な河川沿いに親水性に富む散策路の整備を進める。 ◇事業指標：歌川コースの整備 （現況） 4,400m （5年後目標） 5,000m ◇事業指標：波田川コースの整備 （現況） 4,300m （5年後目標） 4,700m 歌川橋と棚田橋を架け替え、歌川の多自然型河川整備を推進し、その完成をめざす。 ◇事業指標：整備進捗 （現況） 工事中 （5年後目標） 完成 県立いせはら塔の山緑地公園の全面開放等に向けて整備促進を県へ要請するとともに、公園整備と合わせてアクセス機能の改善を図る。 ◇事業指標：供用開始された面積 （現況） 約12ヘクタール （5年後目標） 約33ヘクタール	[めざす状態] 自然と調和した土地利用がなされ、身近にやすらぎを感じることもできる空間がある。 [まちづくり指標] 市民1人あたりの公園面積 3.4㎡ ⇒ 4.7㎡
----------------------------	---	---	--

良好な景観の形成	○計画的な土地利用の推進 広域幹線道路の整備を契機として様々な開発計画が進み、周辺地域の様相も大きく変化するものと考えられます。豊かな自然環境との調和に配慮したまちづくりの計画や土地利用の規制・誘導の仕組みづくりを進め、また、地域による自主的なまちづくりを支援するとともに、伊勢原らしい景観を形成し、都市としての魅力を一層高めていくための景観計画の策定に取り組む。 ・景観計画の策定	周辺環境との調和を基本とする土地利用の展開や様々な開発調整のために必要なルールづくりを推進する。 ◇事業指標：土地利用調整条例の制定 (現況) 検討 (5年後目標) 条例制定 ◇事業指標：開発指導要綱の条例化 (現況) 検討 (5年後目標) 条例制定 自然と歴史とマッチした町並みの創出を図るとともに、暮らしやすさを形成するための景観計画の策定を進める。 ◇事業指標：景観計画の策定 (現況) 検討 (5年後目標) 条例制定	
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	○交通安全・放置自転車対策の推進 交通事故を未然に防止するため、交通安全・放置自転車対策を進めるとともに、歩行空間の整備や自転車の速度抑制につながる工夫が施された歩車共存道路などの整備を進める。 ・誰にもやさしい歩行空間整備	一般市道における歩行空間の確保を進める。 ◇事業指標：幹線市道の歩道等整備延長 (現況) - (5年後目標) 1,450m ◇事業指標：歩車共存道路の整備延長 (現況) - (5年後目標) 450m	[めざす状態] 交通事故のないまちづくりが進んでいる [まちづくり指標] 交通事故発生件数(年間) 603件 ⇒ 600件以下